３　県政への要望

|  |
| --- |
| ３　県政への要望  （問17） |

○　「県政への要望」は、昭和43年度の第１回県政世論調査から、おおむね継続して実施してきています。

平成16年度において社会状況等の変化を踏まえ、平成７年度から平成15年度まで継続していた選択肢を一部見直しました。

分析において、平成15年度以前の調査結果と比較する場合は、見直し前の対応する選択肢についての結果を使用しています。

○　令和２年度において社会状況等の変化を踏まえ、選択肢を一部追加しました。

○　平成27年度までは、満20歳以上の方を調査対象として実施しており、平成28年度以降は満18歳以上の方を対象に実施しています。

○　調査手法として、令和元年度までは「個別面接聴取法」で実施しており、前回の令和２年度から「郵送法（郵送配布、郵送回収・インターネット回収併用）」で実施しています。

３．県政への要望について

**◇**「新型コロナウイルス感染症対策を進める」（26.8％）が前回に引き続き１位

|  |
| --- |
| 問17　埼玉県政への要望についておたずねします。  県の行政全般の中で、現在、あなたが最も重点をおいてほしいもの、特に必要だと思うものを、次の中から３つまで選んでください。（○は３つまで） |



【過去調査との比較】

今回の上位10位と前回の令和２年調査を比べると、上位３項目は前回と同様に「新型コロナウイルス感染症対策を進める」が１位、「災害から県民をまもる」が２位、「医療サービス体制を整備する」が３位となっており、近年の社会状況を反映したものとなっている。また、「交通事故をなくす」は前回12位から順位を２つ上げて10位となっている。

前回調査との増減をみると、「新型コロナウイルス感染症対策を進める」が10.5ポイント減少、「地球温暖化を防止する」が2.4ポイント減少している。一方、「交通事故をなくす」は2.9ポイント増加している。

○「県政」への要望について



【上位10位の属性別比較】

□第１位／新型コロナウイルス感染症対策を進める

地域別では秩父地域（32.5％）で３割強と最も高く、南西部地域（20.5％）で２割台前半と最も低くなっている。

性別では女性（30.2％）の方が男性（22.7％）よりも7.5ポイント高くなっている。

年代別では60歳代（32.1％）で３割強と最も高く、70歳以上（24.6％）で２割台半ばと最も低くなっている。

職業別では無職（計）（30.4％）が３割を超えて高くなっている。

ライフステージ別では家族成熟期（33.5％）と独身期（30.0％）で３割台と高くなっている一方で、家族形成期（22.3％）で２割強と最も低くなっている。

□第２位／災害から県民をまもる

地域別では南部地域（31.0％）で３割強と最も高く、秩父地域（17.5％）で１割台後半と最も低くなっている。

年代別では50歳代（34.0％）が３割台半ばと最も高く、10歳代・20歳代（16.7％）で1割台後半と最も低くなっている。

ライフステージ別では、家族成熟期（30.5％）で３割を超えて最も高く、家族形成期（17.7％）で1割台後半と最も低くなっている。

□第３位／医療サービス体制を整備する

地域別では県央地域（25.7％）で２割台半ばと最も高く、秩父地域（10.0％）で1割と最も低くなっている。

性別では女性（21.6％）の方が男性（17.6％）よりも4.0ポイント高くなっている。

性・年代別では女性50歳代（24.2％）と女性60歳代（24.3％）でともに２割台半ばと高く、男性10歳代・20歳代（10.9％）と男性30歳代（9.9％）では１割前後と低くなっている。

ライフステージ別では高齢期（22.5％）で２割強と最も高く、家族形成期（15.8％）で１割台半ばと最も低くなっている。

□第４位／高齢者の福祉を充実する

地域別では利根地域（20.8％）で２割を超えて最も高く、秩父地域（10.0％）で1割と最も低くなっている。

性・年代別では、男女ともおおむね年代が上がるほど割合が高くなっており、男女とも70歳以上で3割を超えている。

職業別では無職（計）（21.7％）で２割強と最も高くなっている。

ライフステージ別では高齢期（26.4％）で２割台半ばを超えて最も高く、家族成長前期（3.3％）独身期（4.6％）、家族形成期（4.7％）ではそれぞれ１割未満と低くなっている。

□第５位／地球温暖化を防止する

地域別では秩父地域（30.0％）で3割と最も高く、南部地域（12.7％）では１割強と最も低くなっている。

年代別では70歳以上（23.7％）で２割強と最も高く、30歳代（5.1％）と40歳代（8.5％）で１割未満と低くなっている。

ライフステージ別では高齢期（24.0％）で２割台半ばと最も高く、家族形成期（4.2％）と家族成長前期（6.5％）でともに１割未満と低くなっている。

□第６位／子育て支援を充実する

地域別では秩父地域（20.0％）で２割と最も高く、県央地域（11.0％）で１割台前半と最も低くなっている。

性別では女性（15.5％）の方が男性（12.8％）よりも2.7ポイント高くなっている。

年代別では30歳代（42.4％）で４割強と他の年代層を大きく上回って最も高く、50歳代以上になると1割未満と低くなっている。

職業別では雇用者（計）（18.1％）で２割弱と最も高くなっている。

ライフステージ別では家族形成期（58.6％）で６割弱と他の層を大きく上回って最も高くなっている。

□第７位／自然をまもり、緑を育てる

地域別では秩父地域（25.0％）で2割台半ばと最も高く、北部地域（8.9％）で１割未満と最も低くなっている。

年代別では60歳代（16.8％）で１割台半ばを超えて最も高く、30歳代（10.1％）で1割台前半と最も低くなっている。

ライフステージ別では高齢期（16.3％）とその他（16.0％）で１割台半ばを超えて最も高く、家族形成期（10.2％）で最も低くなっている。

□第８位／防犯の地域づくりを進める

地域別では南部地域（20.5％）で２割を超えて最も高く、秩父地域（5.0％）で1割未満と最も低くなっている。

性別では女性（14.2％）の方が男性（11.8％）よりも2.4ポイント高くなっている。

年代別では30歳代（19.9％）で約２割と最も高く、70歳以上（7.5％）で１割未満と最も低くなっている。

ライフステージ別では家族成長前期（21.6％）で2割強と最も高く、高齢期（8.4％）で１割未満と最も低くなっている。

□第９位／道路や街路を整備する

地域別では利根地域（15.5％）で１割台半ばと最も高く、川越比企地域（7.5％）で1割未満と最も低くなっている。

年代別では30歳代（15.2％）で１割台半ばと最も高く、70歳以上（8.0％）で1割未満と最も低くなっている。

性・年代別では男性40歳代（19.1％）で約２割と最も高く、女性70歳以上（7.1％）、女性10歳代・20歳代（9.3％）、男性70歳以上（9.4％）で１割未満と低くなっている。

ライフステージ別では家族成長後期（18.5％）で２割弱と最も高く、高齢期（8.5％）で1割未満と最も低くなっている。

□第10位／交通事故をなくす

地域別では利根地域（14.7％）で１割台半ばと最も高く、秩父地域（5.0％）で1割未満と最も低くなっている。

年代別では10歳代・20歳代（16.7％）と30歳代（16.1％）でともに１割台半ばを超えて高く、60歳代（6.8％）で1割未満と最も低くなっている。

ライフステージ別では家族形成期（18.6％）で2割弱と最も高く、高齢期（8.4％）で1割未満と最も低くなっている。

○県政への要望・地域別／性別／年代別／性・年代別／職業別／ライフステージ別





【平成29年以降の上位10位の推移】

過去５年間の上位10位の推移をみると、今回の令和３年の１位は前回に引き続き「新型コロナウイルス感染症対策を進める」となった。２位の「災害から県民をまもる」（４位→１位→３位→２位→２位）と３位の「医療サービス体制を整備する」（２位→３位→２位→３位→３位）は前回順位を維持している。４位の「高齢者の福祉を充実する」（１位→２位→１位→５位→４位）は前回から順位を１つ上げた。５位の「地球温暖化を防止する」（12位→10位→9位→４位→５位）は順位を上げ続けていたが、今回順位を１つ下げた。６位の「子育て支援を充実する」（３位→４位→４位→６位→６位）は前回順位を維持している。７位の「自然をまもり、緑を育てる」（８位→６位→10位→６位→７位）は前回から順位を１つ下げた。８位の「防犯の地域づくりを進める」（５位→５位→５位→８位→８位）と９位の「道路や街路を整備する」（７位→７位→７位→９位→９位）は前回順位を維持している。10位の「交通事故をなくす」（6位→9位→6位→12位→10位）は前回から順位を2つ上げた。



【上位２位から５位の10年間の推移】

令和２年の新設選択肢の「新型コロナウイルス感染症対策を進める」を除いて、今回調査で上位となった「災害から県民をまもる」、「医療サービス体制を整備する」、「高齢者の福祉を充実する」、「地球温暖化を防止する」の４項目について、平成24年以降の直近10年間の推移をみると次のようになっている。

まず、２位の「災害から県民をまもる」は平成29年までは10％台で推移していたが平成30年（25.1％）の2割台半ばまで増加した。令和元年（19.4％）に1割台に減少したが、その後は2割台半ばまで増加して推移している。

３位の「医療サービス体制を整備する」は平成28年（26.9％）に2割台半ばを超えたが、その後は2割台前半で推移し、今回調査（19.8％）では2割を下回った。

４位の「高齢者の福祉を充実する」は、平成24年以降2割台後半で推移してきたが、平成30年に2割台前半（22.9％）まで減少し、前回調査（17.2％）で１割台に減少して今回調査（15.6％）では1割台半ばまで減少した。

５位の「地球温暖化を防止する」は、平成24年以降1割未満で推移してきたが、平成29年（10.7％）に1割台となり前回調査（17.3％）では1割台半ばを超えるまで増加したが、今回調査（14.9％）では１割台半ばに減少した。



※調査方法の変更により令和元年度までの結果と単純に時系列比較はできないことに留意

【属性別の上位５位】

■地域別



■性別



■ライフステージ別



■年代別



■性・年代別

県政への要望 10年間の推移（平成24年度～令和３年度）



